

駅伝監督 MESSAGE



両角 速 (モロズミ ハヤシ)

体育学部競技スポーツ学科 准教授
陸上競技部 中長距離駅伝監督

1966年7月5日生まれ
1985年3月 東海大学第三高等学校卒
1989年3月 東海大学体育学部卒

第93回箱根駅伝を迎えるにあたりまして、東海大学を応援いただいている皆様方に心より感謝申し上げます。

いよいよ箱根駅伝が近づいてまいりました。今年度すでに行われた出雲駅伝と全日本駅伝を振り返ってみますと、出雲は10キロ未満の短い距離を得意としているスピード型の選手が多い本学の特色を生かすことができた大会でした。一方、全日本は走者も増え、距離も長くなることで苦戦を予想しておりましたが、大会直前のアクシデントもあり、2年連続で獲得していたシード権を落とす結果となりました。良い面と悪い面と両方が出た2大会ですが、新戦力の台頭と、多くの選手が大学駅伝を経験することができたという大きな収穫もありました。

今年のチームはエントリーに8名の1年生が入るフレッシュな顔ぶれとなりました。勢いがあり、怖いもの知らずというメリットもありますが、箱根は全日本よりもさらに距離が延び、沿道の大声援という独特の雰囲気の中で20キロを走るのは初めての経験となります。距離対応を含めて未知数な部分が多くなりますが、皆様の声援でルーキーたちの背中を後押ししていただければと思います。

また、1年生ばかりに注目が集まっておりますが、これまでチームの屋台骨を支え、強いチームにするために練習を引っ張り、私生活を含めた自己管理の意識を高めてきたのはまぎれもなく4年生です。個人種目というイメージが強い長距離ですが、駅伝は「チーム力」が問われる競技であり、タイムの足し算だけでは計れません。チームの想いを1本の襷に込め、走者だけでなくサポートに回る上級生にもご注目いただき、温かいご声援とご支援をよろしくお願い申し上げます。



応援場所と時間のご案内

校友会（東京・神奈川）と教職員・学生が一体となって下記地点のコース沿いに応援地点を設置いたします。東海大学の応援のノボリや小旗を目印にお集まりください。

■往路（1月2日）

7:30 頃【東京地区】大手町ファーストスクエア前
8:00 頃【大森地区】大森橋交差点付近 第一京浜沿道
8:30 頃【川崎地区】旧川崎警察署前
9:25 頃【戸塚地区】横浜新道・戸塚出口付近
10:00 頃【藤沢地区】藤沢警察署前
10:30 頃【平塚地区】湘南大橋西岸付近
10:45 頃【大磯地区】大磯町役場駐車場
11:00 頃【大磯地区】国府新宿交差点付近
11:00 頃【国府津地区】(株)井上前(親木橋交差点より西へ200m)
11:30 頃【小田原地区】グリン木の実付近
12:30 頃【箱根地区】箱根恩賜公園駐車場付近

■復路（1月3日）

7:00 頃【箱根地区】箱根恩賜公園駐車場付近
9:00 頃【国府津地区】(株)井上前(親木橋交差点より西へ200m)
9:15 頃【大磯地区】国府新宿交差点付近
9:20 頃【大磯地区】大磯町役場駐車場
9:30 頃【大磯地区】下花木橋西付近スーパーたまや前
9:30 頃【平塚地区】湘南大橋西岸付近
10:00 頃【藤沢地区】藤沢警察署前
12:00 頃【川崎地区】旧川崎警察署前
12:00 頃【高輪地区】泉岳寺駅付近 第一京浜沿道
12:00 頃【日比谷地区】日比谷交番付近
12:00 頃【日本橋地区】日本橋付近
12:30 頃【東京地区】アーバンネット大手町ビル前

※集合日時は例年を目安にしております。天候やレース展開によっては通過時間が前後する場合があります。

応援場所の詳細は web サイトをご参照ください

東海大学では「箱根駅伝応援サイト」を開設しています。応援場所の詳細につきましては、下記 URL をご参照ください。

※スマートフォンをお持ちの方は、右のQRコードから簡単にアクセスできます。

<http://www.u-tokai.ac.jp/hakone2017/>



2017年 学校法人東海大学は
建学75周年を迎えます



第93回 東京箱根間往復大学駅伝競走

箱根駅伝

【東海大学応援ガイドブック】



4年連続44回目の 箱根路への挑戦!!

STAFF

■陸上部部長：植田 恭史 ■陸上部監督：高野 進
■駅伝監督：両角 速 ■駅伝コーチ：西出 仁明
■駅伝コーチ：小池 翔太 ■駅伝コーチ：両角 駿
■駅伝主将：荒井 七海 ■駅伝主務：大橋 智明



■本学の箱根駅伝の記録

大会回数	年	総合順位	大会回数	年	総合順位
第49回	1973	14位	第71回	1995	8位
第50回	1974	9位	第72回	1996	4位
第51回	1975	10位	第73回	1997	8位
第52回	1976	13位	第74回	1998	14位
第53回	1977	6位	第75回	1999	5位
第54回	1978	10位	第76回	2000	7位
第55回	1979	11位	第77回	2001	途中棄権
第56回	1980	10位	第78回	2002	14位
第57回	1981	12位	第79回	2003	7位
第58回	1982	11位	第80回	2004	2位
第59回	1983	5位	第81回	2005	6位(往路優勝)
第60回	1984	6位	第82回	2006	6位
第61回	1985	13位	第83回	2007	3位
第62回	1986	7位	第84回	2008	途中棄権
第63回	1987	6位	第85回	2009	18位
第64回	1988	8位	第86回	2010	12位
第65回	1989	8位	第87回	2011	4位
第66回	1990	8位	第88回	2012	12位
第67回	1991	8位	第90回	2014	13位
第68回	1992	10位	第91回	2015	6位
第69回	1993	14位	第92回	2016	5位
第70回	1994	5位			

【過去最高順位】総合：2位、往路：優勝、復路：4位

東海大学エントリー選手



石橋 安孝
いしはし やすたか

大きな大会で外さない「安定感」を自信に、箱根では初の区間賞を目指して頑張ります。



林 竜之介
はやし りゅうのすけ

最上級生として、どの区間でもしっかりとレースの流れをつくる走りをしたいと思います。



川端 千都
かわばた かずと

箱根に向けて長い距離を走り、スタミナ強化に励んできたので、今季の集大成となる走りをします。



國行 麗生
くにゆき れお

心の準備をしっかりとし、前回大会の経験と反省を生かし、納得できる走りで区間賞を目指します。



端慶覧 伸哉
ずけらん しんや

大舞台になるほどリラックスできるので積極的に攻める走り後半の粘りに注目してください。



宮本 甲斐
みやもと かい

どの区間を任されてもしっかりと準備して、チームに貢献する結果を残したいと思います。



春日 千速
かすが ちはや

どこの区間を任せられても試合に出られる喜びや走れる楽しさを感じながら、区間上位を目指します。



湯澤 舜
ゆざわ しゅん

総合3位以内を目指すチームのためにも任された区間で最低でも3位には入りたいと思います。



鬼塚 翔太
おにつか しょうた

持ち味であるラスト400mのスパートを生かせるようなレース展開を視野に、区間賞を目指します。



阪口 竜平
さかぐち りゅうへい

プレッシャーをモチベーションの源に変えて、区間賞を取ってチームに貢献したいと思います。



高田 凜太郎
たかた りんたろう

長い距離への不安を払拭したことを箱根路の走りで見せられるよう、しっかり調整していきます。



中島 怜利
なかしま れいり

長い距離が得意なので、任された区間で攻めの走りをして、有利にレースを進めたいと思います。



郡司 陽大
ぐんじ あきひろ

兄も箱根駅伝に出場したので、同じ舞台に立ち、区間上位の走りでチームに貢献したいと思います。



關 颯人
せき はやと

強い選手と走れる機会はなかなかないので、どこの区間でもレースを楽しみたいと思います。



館澤 亨次
たてざわ りょうじ

トップクラスの選手との勝負を楽しみ、出雲・全日本と同様に積極的な走りでの区間賞を目指します。



松尾 淳之介
まつお じゅんのすけ

持ち味はスタミナで長い距離には自信があります。チームに貢献する走りをしたいと思います。

2016 年度 学生駅伝 Report

■第 28 回出雲駅伝

駅伝シーズンの開幕戦となる出雲駅伝は、全 6 区間 45.1 ㎞と 1 区間の距離が短くスピード駅伝と呼ばれる。1 区から 3 区までルーキーを並べる攻めのオーダーを組んだ東海大学チームは、1 区鬼塚選手と 2 区館澤選手が区間 2 位の好走をみせ、エース区間である 3 区で關選手が見事に区間賞を獲得。終盤に他大学の追い上げを受けたが 3 位でフィニッシュし、幸先のよいスタートを切った。



エース区間で区間賞の關選手

■第 48 回全日本大学駅伝

箱根駅伝前哨戦と位置付けられる全日本大学駅伝。全 8 区間 106.8 ㎞に及ぶ伊勢路を全 27 チームで競う本大会に本学は 3 年連続 29 回目の出場。直前の故障等で万全のオーダーが組めず、レースは序盤から出遅れる苦しい展開となったが、3 区館澤選手が区間賞の走りを見せ、6 区國行選手も区間 2 位の好走。反撃ムードが一気に高まったが、シード権に一歩及ばず 7 位でゴールとなった。



気迫の走りで区間賞の館澤選手

箱根駅伝コース紹介

■1 区【大手町→鶴見 (21.3km)】

コースは全体的にフラットで走りやすく、スピードランナーを起用するチームが多い。83 回大会の佐藤悠基選手による 1 時間 1 分 6 秒が現在も区間記録。50 回大会の宮田将美選手、81 回大会の丸山敬三選手も区間賞を獲得している。



81 回大会の丸山敬三選手

■2 区【鶴見→戸塚 (23.1km)】

23.1 km の 2 区は平地の最長距離区間で、各大学のエースが集まることから「花の 2 区」と呼ばれる。過去に 1 時間 7 分を切った日本人選手は 3 人だけで、87 回大会で村澤明伸選手が 1 時間 6 分 52 秒で区間賞を獲得。



86 回大会の村澤明伸選手

■3 区【戸塚→平塚 (21.4km)】

往路の中盤である 3 区は、はじめの 1 km まではわずかな上り坂、以降は長い下りが続くスピードコースで、近年は 2 区とセットでエース区間として往路の重要区間と考える大学が増えている。82 回大会で佐藤悠基選手が区間賞を獲得している。



82 回大会の佐藤悠基選手

■4 区【平塚→小田原 (20.9km)】

今回の 93 回大会から中継所の変更によって距離が延長され、5 区の山上りにつなげる重要区間となった。平地区間では一番距離が短い、細かなアップダウンが続く難コース。往路の順位を左右する区間として、各大学とも主力選手を投入することが予想される。

■5 区【小田原→箱根 (20.8km)】

山上りと形容され、標高 874m を一気に駆け上る箱根駅伝の代名詞ともいえる区間。箱根湯本駅を過ぎた辺りから本格的な上りが始まり、後半 4 km は一転して下りとなる。75・76 回大会の柴田真一選手、79 回大会の中井祥太選手が区間賞を獲得している。



80 回大会の中井祥太選手

■6 区【箱根→小田原 (20.8km)】

5 区の山上りに対して山下りと呼ばれ、スタートから約 4 km 上った後、箱根湯本駅まで一気に下っていく。スピードが速くカーブが急なのでより以上にコース取りが重要。駅から中継所までの約 3 km は平地であるが、上りに感じるほど脚の負担が大きい。



91 回大会の山下英俊選手

■7 区【小田原→平塚 (21.3km)】

スタート後、国府津駅前までの前半はほぼ平坦で、9 km 過ぎから細かなアップダウンが中継所まで続く。全 10 区間の中で一番気温差が激しいのも特徴。80 回大会の小出徹選手と 84 回大会の佐藤悠基選手が区間賞を獲得している。



84 回大会の佐藤悠基選手

■8 区【平塚→戸塚 (21.4km)】

太陽の強い日差しと追い風が選手を苦しめる 8 区。15.9 km 付近から約 500m 続く遊行寺の坂は、コース全体でも有数の急な上り坂であり、脱水症状などのアクシデントへの注意も必要な区間。80 回大会で影山淳一選手が区間賞を獲得している。



80 回大会の影山淳一選手

■9 区【戸塚→鶴見 (23.1km)】

2 区を逆走する 9 区は、2 区同様に平地の最長距離区間。レースが終盤に差し掛かることもあり、各チームともに復路のエースを投入し、優勝やシード権の主導権争いが繰り広げられる。コースは序盤に急な下り坂から始まり、緩やかなアップダウンを繰り返す。

■10 区【鶴見→大手町 (23.0km)】

最終 10 区はコース自体はフラットで走りやすい。75 回大会以降に距離が延びてから準エース級の選手が集まる区間となった。気温上昇やプレッシャーから大逆転劇やアクシデントが起こることが多く、ラストの切れが求められる区間でもある。



87 回大会の藤井勘太選手

■エントリー選手ベスト記録 (2016 年 12 月 9 日現在)

氏名	学年	学部・学科	出身高校	5000m	10000m	ハーフ
石橋 安孝	4	体・競技スポーツ	福井・美方	13.55.85	28.52.64	63.44
瑞慶覧 伸哉	4	工・動力機械工	沖縄・宮古	14.22.28	29.38.09	64.29
林 竜之介	4	政・政治	愛媛・宇和	13.56.69	29.34.08	63.07
宮本 甲斐	4	理・数学	兵庫・須磨学園	14.16.70	29.15.71	63.41
春日 千速	3	理・数学	長野・佐久長聖	13.52.92	29.05.39	63.10
川端 千都	3	体・競技スポーツ	京都・綾部	13.49.33	28.44.71	—
國行 麗生	3	体・競技スポーツ	徳島・美馬商業	13.59.14	29.25.80	64.49
湯澤 舜	2	体・競技スポーツ	長野・東海大三	14.19.32	29.13.44	63.22
鬼塚 翔太	1	体・競技スポーツ	福岡・大牟田	13.43.61	28.55.26	62.03
郡司 陽大	1	体・競技スポーツ	栃木・那須拓陽	14.15.36	29.22.13	63.34
阪口 竜平	1	体・体育	京都・洛南	13.51.69	30.12.64	—
關 颯人	1	体・競技スポーツ	長野・佐久長聖	13.41.28	28.48.63	—
館澤 亨次	1	体・競技スポーツ	埼玉・埼玉栄	13.48.89	29.50.67	—
高田 凜太郎	1	文・広報メディア	熊本・九州学院	14.11.25	28.57.91	63.03
中島 怜利	1	体・競技スポーツ	岡山・倉敷	14.06.95	29.16.18	—
松尾 淳之介	1	体・競技スポーツ	秋田・秋田工業	14.08.14	28.59.65	62.17

区間	コース・距離	区間記録	東海大学記録
1区	大手町→鶴 見 (21.3km)	1.01.06 佐藤 悠基 (東海/07年/83回)	1.01.06 佐藤 悠基 (07年/83回)
2区	鶴 見→戸 塚 (23.1km)	1.06.04 M.J.モグス (山学/09年/85回)	1.06.52 村澤 明伸 (11年/87回)
3区	戸 塚→平 塚 (21.4km)	1.01.38 O.コスマス (山学/12年/88回)	1.02.12 佐藤 悠基 (06年/82回)
4区	平 塚→小田原 (18.5km)	0.54.28 田村 和希 (青学/15年/91回)	0.55.58 小泉 元 (07年/83回)
5区	小田原→箱 根 (23.2km)	1.16.15 神野 大地 (青学/15年/91回)	1.21.12 宮上 翔太 (15年/91回)
往路	大手町→箱根 (107.5km)	5.23.58 青山学院 (15年/91回大会)	5.33.55 (15年/91回大会)
6区	箱 根→小田原 (20.8km)	0.58.09 秋山 清仁 (日体/16年/92回)	1.00.26 山下 英俊 (15年/91回)
7区	小田原→平 塚 (21.3km)	1.02.32 設楽 悠太 (東洋/12年/88回)	1.02.35 佐藤 悠基 (08年/84回)
8区	平 塚→戸 塚 (21.4km)	1.04.05 古田 哲弘 (山学/97年/73回)	1.05.27 影山 淳一 (04年/80回)
9区	戸 塚→鶴 見 (23.1km)	1.08.01 篠藤 淳 (中学/08年/84回)	1.10.07 一井 裕介 (06年/82回)
10区	鶴 見→大手町 (23.0km)	1.08.59 松瀬 元太 (順大/07年/83回)	1.10.31 藤井 勘太 (11年/87回)
復路	箱根→大手町 (109.6km)	5.25.29 青山学院 (15年/91回大会)	5.33.13 (15年/91回大会)
総合	東京箱根間往復 (217.1km)	10.49.27 青山学院 (15年/91回大会)	11.07.08 (15年/91回大会)

※93 回大会からのコース変更に伴い、4 区・5 区・往路・総合の各記録は参考記録となります。

科学的トレーニングで駅伝チームをサポート
■低圧室 (高地トレーニング室) 湘南キャンパスの低圧室は、標高 0 ～ 4 km までの環境を再現することができる私大では本学のみが設置している施設。心拍数とともに、酸素と赤血球中にあるヘモグロビンとの結合の割合を表す数値動脈血酸素飽和度 (SpO ₂) を計測し、選手ごとの生体負担度を判断します。高地環境で負荷をかけることによってヘモグロビンが増加し、酸素運搬能力が向上することから、持久力が高まる効果があります。
 